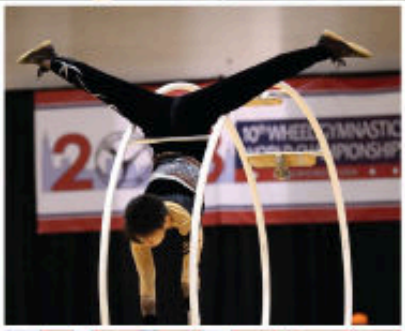
Interview

# 「ラート」に出合い頂点に輝く
# 世界大会で金メダル

東京学芸大学大学院2年　**江塚和哉**さん

「ラート競技」はドイツ発祥で、2本の鉄の輪を平衡につないだ器具を用いて、さまざまな競技を行うスポーツ。今年の7月7日～14日にかけてシカゴで開催された、第10回世界ラート競技選手権大会の種目別直転で、日本人初の金メダルを獲得したのが小平在住の江塚和哉さん（26歳）。現在、東京学芸大学大学院で幼児教育を学んでいる。次は12月の全日本選手権大会へ向けて練習に励む江塚さんを、日野市にある体育館に訪ねた。

ラート運動はもともとドイツで子どもの遊び道具として、1925年に考案されたもの。日本では第2次世界大戦中、航空操縦士養成の訓練活動のために用いられていたが、終戦後は一切姿を消した。その後、1989年に現筑波大教授の長谷川聖修氏が留学先のドイツからラートを持ち帰り、ニュースポーツとして普及活動してきた。日本ではまだマイナースポーツだが、ヨーロッパでは大変人気があり、熟練者の高度な演技のみならず、障がい者へのリハビリ的スポーツとして、また生涯スポーツとして高く評価されている。



シカゴ世界大会の演技と表彰式（上3枚）
写真提供：渡辺　勝

## 完璧な演技で金メダル

江塚さんは静岡県出身。高校まではサッカーやバレーボールもやっていたが、筑波大学体育専門学部へ入り初めてラート競技に出会い、「自分を輝かせる場はここだ」とひらめいたそうだ。メキメキと頭角を現し、わずか4年後の2009年には、隔年開催の世界大会に初出場して銅メダルを獲得。大学卒業後は幼稚園に就職したので、2011年の大会には仕事の都合で棄権。その後幼児教育を勉強するため東京学芸大大学院へ入り、この夏は2年前の無念を晴らす栄冠に輝いた。

大会には世界20か国から120名余りの選手が参加し、日本からは15名が出場。競技は2本の輪を床に接して回る「直転」、片方だけを接して回転する「斜転」、転がしたラートにジャンプして技を行う「跳躍」の3種目に分かれ、江塚さんはシニア男子の直転種目で高難度の演技を披露。得点はラートの歴史で最高という12・45点を獲得。You Tubeでその時の演技を見てみた。自身が苦労して選んだというドラマ「医龍」の挿入歌にのり、ラートと一体になった演技。その何と優雅で、しかもダイナミックであることか。画面を通して見ても熱くなった。こうして渾身の演技で見事世界一に。「ただ、ただ、うれしかった」と控えめな江塚さん。そして個人総合では4位、団体戦では銀メダルという活躍ぶりだった。

下）練習中の左から森さん、江塚さん、小松崎さん

## だれでもできる生涯スポーツ

「美しさと独創性ある演技を両立させることは難しいのですが、江塚さんはそれができる競技者です」というの

日本ラート協会事務局(担当 西井)
小平市上水新町2－27－30
Tel. 042-349-2024
Fax. 042-349-2524

はこの日、一緒に練習中の森更紗さん。森さんも女子競技者の第一人者。ともに世界大会に出場し、「たまラートクラブ」を立ち上げ、ラートの指導や普及に励んでいる。もう一人練習中なのは「テレビでみて、やってみたいと思い始めた」という小松崎朋子さん。3人が各々のラートを転がし、黙々と練習中。体育館内には鉄の輪が床板と接する、ゴロン、ゴロンという音が響いている。江塚さんは自由自在にラートの上に乗ったり、体を回転させたり、初めて生のラートを見る身には、まるでラートを操る曲芸師のようだ。

「やってみませんか」3人からアッ〜ク勧誘され、おっかなびっくり、はりつけになった気分（？）でラートの上に乗ってみた。両手で上部のグリップを握り、シューズはベルトで固定。「僕が足を支えていますから大丈夫」と親切な江塚さん。左右に揺らすだけかと思っていたら、なんと天地がひっくり返り、「ヒャー」一回転したのだ。一瞬の「宇宙遊泳」を体験した気分だった。

このようにラートは体操経験がなくても、小学生から中高年まで何歳からでも始められる。「集団スポーツが苦手な子どもでも、ラートは楽しくてはまる子が多い」と江塚さんは言う。腹筋、背筋を締めるので、正しい姿勢に役立ち、血行促進、肩こりや腰痛の予防、またシェイプアップにも効果的で女性愛好者が増えているそうだ。

## 「ラート」と「幼児教育」の両輪で

専用の練習場があるわけではなく、日野や八王子、小平などの体育館使用を申し込み、ラートを自分の車に積み込み練習に出向く。ラート部がある大学は全国で8校、高校は沖縄の高校1校だけという。「これからのスポーツだからこそ横のつながりが強く、自分たちで新しい技を生み出せる可能性が大いにありますし、努力すれば達成に結びつくことが魅力ですね」

競技者としての夢は、ラートの世界大会を日本で開催してほしいこと、オリンピック種目になること。そのためにもラートができる環境を増やして、裾野を広げたい。11月には小平の小学校で公開演技を披露する予定だ。

一方で現在大学院の修士論文も進行中。テーマは「子どもの運動遊びに対する意識」。幼児にとって自由な遊びこそが心身を発達させ、周りとの関わりも成長させるという。卒業後は千葉の保育園へ就職が決まっている。今後は教育者として、また世界的なラート競技者として、ますますの活躍が期待される。（小平市在住）